27日　木曜

使徒

　15:12 すると、全会衆は静かになった。そ
して、バルナバとパウロが、神が彼らを通し
て異邦人の間で行われたしるしと不思議につ
いて話すのに、耳を傾けた。
15:13 二人が話し終えると、ヤコブが応じて
言った。「兄弟たち、私の言うことを聞いて
ください。
15:14 神が初めに、どのように異邦人を顧み
て、彼らの中から御名のために民をお召しに
なったかについては、シメオンが説明しまし
た。
15:15 預言者たちのことばもこれと一致して
いて、次のように書かれています。
15:16 『その後、わたしは倒れているダビデ
の仮庵を再び建て直す。その廃墟を建て直し、
それを堅く立てる。
15:17 それは、人々のうちの残りの者とわた
しの名で呼ばれるすべての異邦人が、主を求
めるようになるためだ。
15:18 ――昔から知らされていたこと、それ
を行う主のことば。』
15:19 ですから、私の判断では、異邦人の間
で神に立ち返る者たちを悩ませてはいけませ
ん。
15:20 ただ、偶像に供えて汚れたものと、淫
らな行いと、絞め殺したものと、血とを避け
るように、彼らに書き送るべきです。
15:21 モーセの律法は、昔から町ごとに宣べ
伝える者たちがいて、安息日ごとに諸会堂で
読まれているからです。」
15:22 そこで、使徒たちと長老たちは、全教
会とともに、自分たちの中から人を選んで、
パウロとバルナバと一緒にアンティオキアに
送ることに決めた。選ばれたのはバルサバ
と呼ばれるユダとシラスで、兄弟たちの間
で指導的な人であった。
15:23 彼らはこの人たちに託して、こう書き
送った。「兄弟である使徒たちと長老たち
は、アンティオキア、シリア、キリキアに
いる異邦人の兄弟たちに、あいさつを送り
ます。
15:24 私たちは何も指示していないのに、私
たちの中のある者たちが出て行って、いろ
いろなことを言ってあなたがたを混乱させ、
あなたがたの心を動揺させたと聞きました。
15:25 そこで私たちは人を選び、私たちの愛
するバルナバとパウロと一緒に、あなたが
たのところに送ることを、全会一致で決め
ました。
15:26 私たちの主イエス・キリストの名のた
めに、いのちを献げている、バルナバとパ
ウロと一緒にです。
15:27 こういうわけで、私たちはユダとシラ
スを遣わします。彼らは口頭で同じことを
伝えるでしょう。
15:28 聖霊と私たちは、次の必要なことのほ
かには、あなたがたに、それ以上のどんな
重荷も負わせないことを決めました。
15:29 すなわち、偶像に供えたものと、血と、
絞め殺したものと、淫らな行いを避けるこ
とです。これらを避けていれば、それで結
構です。祝福を祈ります。」

　バルナバとパウロという献身した２人が主のみわざを証言するのですから、人々はそれを尊重しないわけにはいきません。またヤコブもそれに対して聖書のみことばから裏付ける発言をしました。主のみわざと聖書がやはり決め手になります。

Bible Reference 聖書の記述

　さらに主のみわざが進むためにヤコブは発言します。「異邦人を悩ませる」ようなことがあるなら、当然主のみわざを妨げることになります。このようにして異邦人である私たちに「信仰による救い」を明確してくださったのは背後に導かれる主であるとともに、その主に仕えた人々の働きを通してなのです。
　私たちも主のみわざに対して、固定観念や立場で妨げることなく、むしろ力になるようでありましょう。
　手紙の内容は、救いのためには律法の重荷を科する必要がないということでした。救いは律法ではなく、主イエスの十字架を受け入れる信仰によるということが明確になったのです。
　またその中には前述のように、「偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血」についての注意書きがありました。それはユダヤ人に配慮してのことでありますし、また不品行（結婚以外の性的関係）を避けるのは当たり前のことでもあります。クリスチャンは救いの教理を知っていれば十分というのではなく、交わりや証しを健全に保つための配慮も必要なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？